

氏名	秋山 光文 AKIYAMA Terufumi
所属	人間文化創成科学研究科文化科学系
職名	教授
学位	文学修士(1974),M.A.(Art History)
専門分野	東洋美術史（とりわけ南アジアを中心とした仏教美術史）
URL	
E-mail	akiyama.terufumi@ocha.ac.jp

研究者キーワード / Keywords

インド仏教美術史
仏教図像学

History of Indian Buddhist Art
Buddhist Iconography

主要業績

報告書『美術に即した文化的・国家的自己同一性の追求・形成の研究?全アジアから全世界へ』（平成19?23年度科学研究費補助金基盤研究(S) 研究代表者：小川裕充）

「インドにおける仏教寺院の成立と展開 上・下」『浅草寺』平成22年9月号・10月号

研究内容 / Research Pursuits

インドを淵源とする仏教美術のなかでも、仏伝や本生話など仏教説話を主題とする作例について、インドを中心とした南アジアはもとより、中央アジア・東アジア・東南アジアなど広く仏教文化圏の作例に基づいて、編年的、地域的、思想的な諸要素を経典や歴史書などの史料をもとに、説話図像の成立や展開のプロセスを解明している。本研究の成果を集積することにより、これまでに解明されている経典の伝播ルートに加え仏教文化圏における思想的変遷の推移を図像的变化の過程とともに裏付けることが可能となる。即ち、インドで発生した仏教美術、とりわけ仏教説話図や仏教尊像の図像が周辺地域に伝播し受容されていく過程で、如何に継承され変容を遂げていくのかを主な研究課題としている。これまでに科研を2回獲得したが、今後の方針としてこれまでの成果をもとにインド本土での説話図受容のあり方をもとにして、そのほかの地域での変容を解明していくことにしている。

The main aim of my recent study is to focus the phases of variations and iconographic changes in the Buddhist narrative art among the Asian Buddhist countries, ie. India, Gandhara, the Central Asia, China, the East Asia and the South-East Asia. I have al

■ 教育内容 / Educational Pursuits

講義科目では、「インド仏教美術における聖域の荘厳」をテーマとして、仏教説話を収録する経典（パーリ語、サンスクリット語、漢訳）の特質、成立時期を解説するとともに、本生話、仏伝の中から主要な十六話を選び、経典の違いによる内容の変化を捉え、現存する作例を地域や時代ごとに紹介しつつ、図像の変化と出典となる経典との相関を考察した。演習科目では、上原和著『玉虫厨子の研究』を底本に、同作品を構成する絵画・彫刻・建築の要素について、古代人仏教美術の成立過程を、先行研究を渉猟しながら検証した。

■ 研究計画

■ メッセージ

美術史学の基本は、作品と接することから始まります。美術館や社寺などで実作の作品と向き合い、その時に生じた疑問や興味などに対し、他から与えられた情報をそのまま受け入れるのではなく、自ら確認することによって実証する姿勢を身につけましょう。溢れるばかりの情報に取り巻かれて生活する現代の我々にとって、真実とは何か、真理とは何かということ常々問いかけることが求められています。このために、現地に赴いて多くの資料を収集し、自らの手で分析しながら問題点を抽出するとともに、疑問を解決するということを習慣づけて欲しいと思います。